

大分大学 アセスメント・チェックリスト

学部・研究科	工学研究科	学科・専攻・課程	博士前期課程 工学専攻	コース (教育プログラムと分野)	機械エネルギー工学（工学専門教育プログラム機械エネルギー分野） 電気電子工学（工学専門教育プログラム電気電子工学分野） 知能情報システム工学（工学専門教育プログラム知能情報システム工学分野および数理科学教育プログラム数理科学分野） 応用化学（工学専門教育プログラム応用化学分野および自然科学教育プログラム自然科学分野） 福祉環境工学建築学（工学専門教育プログラム福祉環境工学建築学分野） 福祉環境工学メカトロニクス（工学専門教育プログラム福祉メカトロニクス分野）
--------	-------	----------	----------------	---------------------	--

最終更新日	令和3年（2021年）12月17日
-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー

1	専門分野における高度な知識・技術を有し、科学技術の進展を見据えながら、自立した技術者として新たな知識・技術を継続的に修得することができる。
2	専門分野の新たな課題を自ら探求・発見し、問題を俯瞰的かつ多面的に捉えて整理・分析しながら解決することができる。
3	国際的な観点から科学技術に関する情報を収集・分析し、多様化する科学技術の発展に対応できる能力と技術を自ら学習・獲得することができる。
4	地球規模で起きている課題を理解し、それらの問題と科学技術との融合に関して技術者の視点から考察し、人類の発展に主体的に寄与することができる。

教育課程と学習成果に関する基準

1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP				評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準									
								1	2	3	4				1	2	3	4	5	6	7	8		
1	実施予定	成績評価基準の明確化	大分大学工学研究科 成績評価方針（申合せ）	通年	毎年	全学年	スコアの評価	●	●	●	●	大学院教務委員会	大学院教務委員長	学生の到達度の評価	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施予定	評価結果の検証	大学院評価の検証	通年	毎年	全学年	成績分布の検証	●	●	●	●	大学院教務委員会	大学院教務委員長	成績分布の偏りの確認	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	成績判定資料	留年・休学・退学の学生数と理由の分析	3月	毎年	全学年	留年・休学・退学の学生数とその理由	●	●			コース教員・大学院教務委員	コース長	成績不振者・留年生への指導，学生への学習支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	質問紙	修了予定者アンケート	3月	毎年	2年生	カリキュラム満足度，学習達成度，学生生活の満足度	●	●	●	●	学生	大学院委員会・工学研究科大学院教務委員会	次年度以降のカリキュラム改善，学生支援への利用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	実施中	客観試験	修論試問	2月	毎年	2年生	研究完成度	●	●	●	●	コース全教員	コース長	自ら課題を探求し，解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を評価する。その結果を次年度以降の卒業研究指導に活かす。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	実施中	成績判定資料	修了判定	3月	毎年	2年生	修了しない学生数と理由	●	●	●		コース全教員	コース長	修了しない学生は指導教員を中心にして対応を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	民間試験	TOEIC	4月	毎年	全学年	スコアの評価	●		●		国際ビジネスコミュニケーション協会	国際ビジネスコミュニケーション協会	学生の語学レベルの確認と学生への指導に活かす			●	●		●		●		●
8	実施中	論文	修士論文	3年	毎年	2年生	論文の完成度	●	●	●	●	コース教員	コース長	カリキュラムの総合的な妥当性の把握	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	実施中	外部・内部での発表の評価	プロジェクト研究	後期	毎年	2年生	発表会・講演会などでの発表	●	●	●	●	コース教員	コース長	カリキュラムの総合的な妥当性の把握			●	●						●

